

2022 年度

八百津町 河川水質調査報告書

八百津町 水道環境課

2023 年 2 月

2022 年度河川水質調査報告

調査地点は 16 地点で調査を行い、地点調査項目ごとの平均値と前年度と比較検討を行う。

調査日 1. 2022 年 4 月 12 日
2. 2022 年 11 月 10 日

調査場所	NO. 1	荒川	荒川橋 歩道橋	上流側
	NO. 2	荒川	五宝滝駐車場前	頭首工
	NO. 3	南宮川	東橋	下流側
	NO. 4	油皆洞川	油皆洞橋 歩道橋	下流側
	NO. 5	杣沢川	東部農村センター下	農道橋 上流側
	NO. 6	宮川	大洞川合流点 橋梁	下流側
	NO. 7	辛沢川	稻荷前 橋梁	下流側
	NO. 8	中山川	公民分館前水門	下流側
	NO. 9	飯田川	中屋敷水管橋	上流側
	NO. 10	天王川	天王橋	上流約 20m
	NO. 11	石川	石川橋	下流側
	NO. 12	下田川	下田 農道橋	下流側
	NO. 13	祝谷	薄野	水門
	NO. 14	長曾川	追分橋	下流約 10m
	NO. 15	旅足川	水遊び場	下流約 10m
	NO. 16	名場居川	篠原 農道橋	下流側

1. 八百津町内の公共河川の環境基準

公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定の中で、八百津町の公共河川の環境基準値は、木曾川中流のA類型に該当します。

水 域	該 当 類 型
木 曾 川 上 流 (落合ダムより上流)	A A
木 曾 川 中 流 (落合ダムより犬山頭首工まで)	A
八 百 津 町 河 川	A

A類型の基準値

水素イオン濃度 (pH)	pH=6.5～pH=8.5
生物化学的酸素要求量 (BOD)	2 mg/L 以下
浮遊物質 (SS)	25 mg/L 以下
溶存酸素 (DO)	7.5 mg/L 以上
大腸菌数	300CFU/100ml 以下

等となっています。

調査項目	1. 水素イオン濃度 (pH)
	2. 生物化学的酸素要求量 (BOD)
	3. 化学的酸素要求量 (COD)
	4. 浮遊物質 (SS)
	5. 溶存酸素 (DO)
	6. 全窒素 (T-N)
	7. 全磷 (T-P)
	8. 大腸菌数 (CFU/100ml)

3. 結果の評価

- 1) 年間（年2回）の各項目の平均値を算出し、基準項目が水域類型の環境基準に適合しているか否かの評価を行い、調査地点の該当類型を表にした。

水 域 類 型	調 査 場 所
AA類型	NO. 2 荒川 五宝滝駐車場前 頭首工 NO. 5 柚沢川 東部農村センター下 農道橋 上流側 NO. 7 辛沢川 稲荷前 橋梁 下流側 NO. 14 長曾川 追分橋 下流約 10m NO. 15 旅足川 水遊び場 下流約 10m
A 類型	NO. 1 荒川 荒川橋 歩道橋 上流側 NO. 3 南宮川 東橋 下流側 NO. 4 油皆洞川 油皆洞橋 歩道橋 下流側 NO. 6 宮川 大洞川合流点 橋梁 下流側 NO. 9 飯田川 中屋敷水管橋 上流側 NO. 10 天王川 天王橋 上流約 20m NO. 11 石川 石川橋 下流側 NO. 12 下田川 下田 農道橋 下流側 NO. 13 祝谷 薄野 水門 NO. 16 名場居川 篠原 農道橋 下流側
B 類型	該当なし
C 類型	該当なし
該当類型なし	NO. 8 中山川 公民分館前水門 下流側

2) 2021 年度より環境濃度が改善された河川

調 査 地 点	2021 年度類型	2022 年度類型
NO. 2 荒川 五宝滝駐車場前 頭首工	A	A A
NO. 4 油皆洞川 油皆洞橋 歩道橋 下流	B	A
NO. 5 杣沢川 東部農村センター下 農道橋 上流側	B	A A
NO. 6 宮川 大洞川合流点 橋梁 下流側	C	A
NO. 7 辛沢川 稻荷前 橋梁 下流側	C	A A
NO. 9 飯田川 中屋敷水管橋 上流側	C	A
NO. 10 天王川 天王橋 上流約 20m	C	A
NO. 11 石川 石川橋 下流側	C	A
NO. 12 下田川 下田 農道橋 下流側	C	A
NO. 13 祝谷 薄野 水門	C	A
NO. 14 長曾川 追分橋 下流約 10m	B	A A
NO. 15 旅足川 水遊び場 下流約 10m	A	A A
NO. 16 名場居川 篠原 農道橋 下流側	C	A

13 調査地点で河川水の環境濃度が改善されました。

3) 2021 年度より環境濃度が横ばいであった河川

調 査 地 点	2021 年度類型	2022 年度類型
NO. 1 荒川 荒川橋 歩道橋 上流側	A	A
NO. 3 南宮川 東橋 下流側	A	A
NO. 8 中山川 公民分館前水門 下流側	該当類型なし	該当類型なし

3 調査地点で河川水の環境濃度に変化はありませんでした。

4) 2021 年度より環境汚染が進んでいる河川

該当なし

4. 考察

1) AA類型の河川水域は5調査地点でした。

「NO. 2 荒川 五宝滝駐車場前 頭首工」、「NO. 5 杣沢川 東部農村センター下 農道橋 上流側」、「NO. 7 辛沢川 稻荷前 橋梁 下流側」、「NO. 14 長曾川 追分橋 下流約 10m」、「NO. 15 旅足川 水遊び場 下流約 10m」の5調査地点は大腸菌数が改善されAA類型になりました。

2) A類型の河川水域は10調査地点でした。

「NO. 9 飯田川 中屋敷水管橋 上流側」、「NO. 10 天王川 天王橋 上流約 20 m」、「NO. 11 石川 石川橋 下流側」、「NO. 12 下田川 下田 農道橋 下流側」、「NO. 13 祝谷 薄野 水門」「NO. 16 名場居川 篠原 農道橋 下流側」の8調査地点は大腸菌数が改善されA類型になりました。

「NO. 1 荒川 荒川橋 歩道橋 上流側」、「NO. 3 南宮川 東橋 下流側」の2調査地点は昨年から変化はありませんでした。

3) B類型の河川水域はありませんでした。

4) C類型の河川水域はありませんでした。

5) D類型の河川水域はありませんでした。

6) 「NO. 8 中山川 公民分館前水門 下流側」については水素イオン濃度 (pH) が類型判定の範囲を外れるため該当する類型がありません。

7) 今年度から大腸菌の指標が「大腸菌群数 MPN/100ml」から「大腸菌数 CFU/100ml」と変更された影響もあり、類型の指標上、改善が多い結果となりました。

※河川汚染(ふん便汚染)の指標の一つとして大腸菌群数が元々用いられてきました。

「大腸菌群数」とは「大腸菌と、大腸菌に似た性質を持つ細菌(土壌由来の細菌を含む)を含めた細菌全体量の環境指標」であり、当初は大腸菌のみを検出する技術が確立されていなかったことからこの指標が用いられてきましたが、今日では検出する技術が確立され、今年度から「大腸菌量のみの環境指標」として「大腸菌数」が用いられることになりました。

13調査地点で環境濃度が改善され、3調査地点で環境濃度の変化は見られませんでした。すべての調査地点は大腸菌数が減少し、「NO. 16 名場居川 篠原 農道橋 下流側」の生物化学的酸素要求量(BOD)と「NO. 8 中山川 公民分館前水門 下流側」は水素イオン濃度(pH)が改善すれば環境濃度が改善します。